

# 日本リメディアル教育学会

The Japan Association for Developmental Education

## 第9回全国大会

### 発表予稿集

主 催：日本リメディアル教育学会  
企画実行：日本リメディアル教育学会第9回全国大会実行委員会  
開 催：2013年8月29日（木）、30日（金）  
会 場：広島修道大学



# 日本リメディアル教育学会

## 第9回全国大会・総会の開催にあたって

日本リメディアル教育学会は、2005年に清泉女子大学で開催された第1回大会以来、第2回大会（キャンパスプラザ京都）、第3回大会（西南学院大学）、第4回大会（関東学院大学）、第5回大会（千歳科学技術大学）、第6回大会（湘南工科大学）、第7回大会（福岡大学）、第8回大会（立命館大学）と、回を重ねて参りました。2013年は第9回を迎え、広島修道大学にて全国大会と総会を開催することとなりました。

全国大会にご参加の皆様には、研究発表、情報交換、新しい出会いの機会を提供し、日本リメディアル教育学会の今後の発展の一助となればと考えております。

日本リメディアル教育学会  
会長 穂屋下 茂(佐賀大学)

### 第9回全国大会実行委員会

#### 学会会長

穂屋下 茂(佐賀大学)

#### 大会実行委員長

中園 篤典(広島修道大学)

#### 学会ファウンダー

小野 博(福岡大学)

#### 中国・四国支部会長

谷川 裕稔(四国大学)

#### 実行委員(中国・四国支部会)

秋山 英治(愛媛大学)

大澤 真也(広島修道大学)

加渡 いづみ(四国大学)

亀崎 澄夫(広島修道大学・非会員)

下坂 剛(四国大学)

中西 大輔(広島修道大学)

中村 朋子(広島国際大学)

濱谷 義弘(岡山理科大学)

松下 尚史(岡山理科大学)

御園 真史(島根大学)

矢田部 順二(広島修道大学)

#### 実行委員(九州・沖縄支部会)

江原 由裕(九州龍谷短期大学)

古賀 崇朗(佐賀大学)

小菌 和剛(熊本県立大学・支部会長)

藤井 俊子(佐賀大学)

角 和博(佐賀大学)

高崎 光浩(佐賀大学)

中村 隆敏(佐賀大学)

米満 潔(佐賀大学・事務局)

#### 協力者(関西支部会)

児玉 英明(京都府立大学)

#### 協力者(関東支部会)

酒井 志延(千葉商科大学)

宮崎 孝治(江戸川大学)

## ようこそ中国・四国地方へ、そして広島へ

中国・四国支部会 支部長  
谷川 裕稔(四国大学)

この度、日本リメディアル教育学会第9回大会を、広島修道大学にて開催することになりました。中国・四国地方では、初めての全国大会となります。これを中四国の中核都市である広島で実施できましたことを、たいへん嬉しく存じます。

第9回全国大会は、28日のプレイベント（広島YMCA国際文化センター）を皮切りに、29日・30日（ともに広島修道大学）と、都合3日間実施されます。2日間（29日・30日）の大会には、講演2件、シンポジウム2件、課題セッション8件、一般発表56件などが予定されており、たいへん盛りだくさんなものになっています。本大会の発表・研究内容が、皆様方にとって有意義なものになることを切に祈っております。

今大会では、新たに「課題セッション」を設定いたしました。これにこたえて、6つの専門部会から、ミニシンポジウムの企画をいただきました。どのテーマも、リメディアル教育において、いま最も切実と考えられる重要な問題ばかりです。こちらにも、皆様方の積極的なご参加・協力を心よりお待ちしております。

今大会のもうひとつの特徴は、中国・四国支部会以外の会員が実行委員として、大勢参加・協力くださったことです。これは、本支部会の規模が小さいためによるものですが、今大会における連携体勢については、今後、地方支部で全国大会を開催する際のモデルケースとなるのではないかと思います。

広島には有名な観光スポットがたくさんございます。例えば、広島平和記念資料館、原爆ドーム、安芸の宮島（厳島神社）、呉の大和ミュージアム、坂本龍馬ゆかりの地である尾道・鞆の浦、しまなみ海道など。また、ご存知のとおり、牡蠣、広島牛、お好み焼き、尾道ラーメンなど、食通にとってたまらない食べ物もございます。大会期間前後には、ぜひ時間をつくって、散策されてはいかがでしょうか。

最後に、本大会の会場を提供くださいました広島修道大学、後援をいただきました全国大学コンソーシアム協議会、広島県教育委員会に深くお礼申し上げます。

## 大会テーマ（学校教育のトータルプロデュース）について

第9回大会実行委員長

中園 篤典（広島修道大学）

2013年現在，大学全入化は，すでに実現していると考えられます。必然としての学生の質の低下を受けて，「学士力」「社会人基礎力」「学位の質保証」「単位制度の実質化」などのキーワードは出揃いました。今は，その実施の段階といえます。

事実として，全国の大学では，FDが盛んです。傾向として，自律的な学習者の育成を目指し，最新の学習科学に基づいた教授法が推奨されることが多いようです。これらリメディアル教育の最新の研究動向については，6つの専門部会が「課題セッション」として独自の企画を提供しています。

本大会の特徴は，これら共時的な視点に加え，リメディアル教育に通時的な視点を導入したことです。それは，大学生が大学に入学する以前，中学・高校時代に受けた教育や学びの姿の検討です。彼らが過去に学校で受けた教育歴を知らなければ，今の大学生に対して適切な指導が出来ないと考えたからです。

リメディアル教育が必要な学生は，百分率が分からない，辞書の引き方を知らない，など擲論をもって語られることが多いです。彼らには，最新の学習科学に基づいた教授法が有効かもしれません。しかし，それを考える前に，なぜ大学に進学するまでその事実が見過ごされていたのかに注目すべきではないでしょうか。

おそらく学生は，これらの情報を中学・高校で教えられたが，定着しなかったのでしょう。とすれば，大学生の学力について，何が問題であるのか，どうすればよいのか，など教育上のノウハウを最も多く持っているのは，中学・高校の教諭と思われれます。

「リメディアル教育に通時的な視点を入れる」とは，中学・高校のカリキュラムとその運用，教育現場の現状などをよく検討したうえで，今の大学生の教育を考えることです。

果たして，児童・生徒はどのような教育を受け，何につまずき，どう克服しているのか。これらの事実を踏まえて大学教育を再構成すれば，一部に見られる「目もくらむような高い目標設定」は姿を消すでしょう。その結果，大学教育は，より適切な目標設定，教授法の選択が可能になると期待できます。

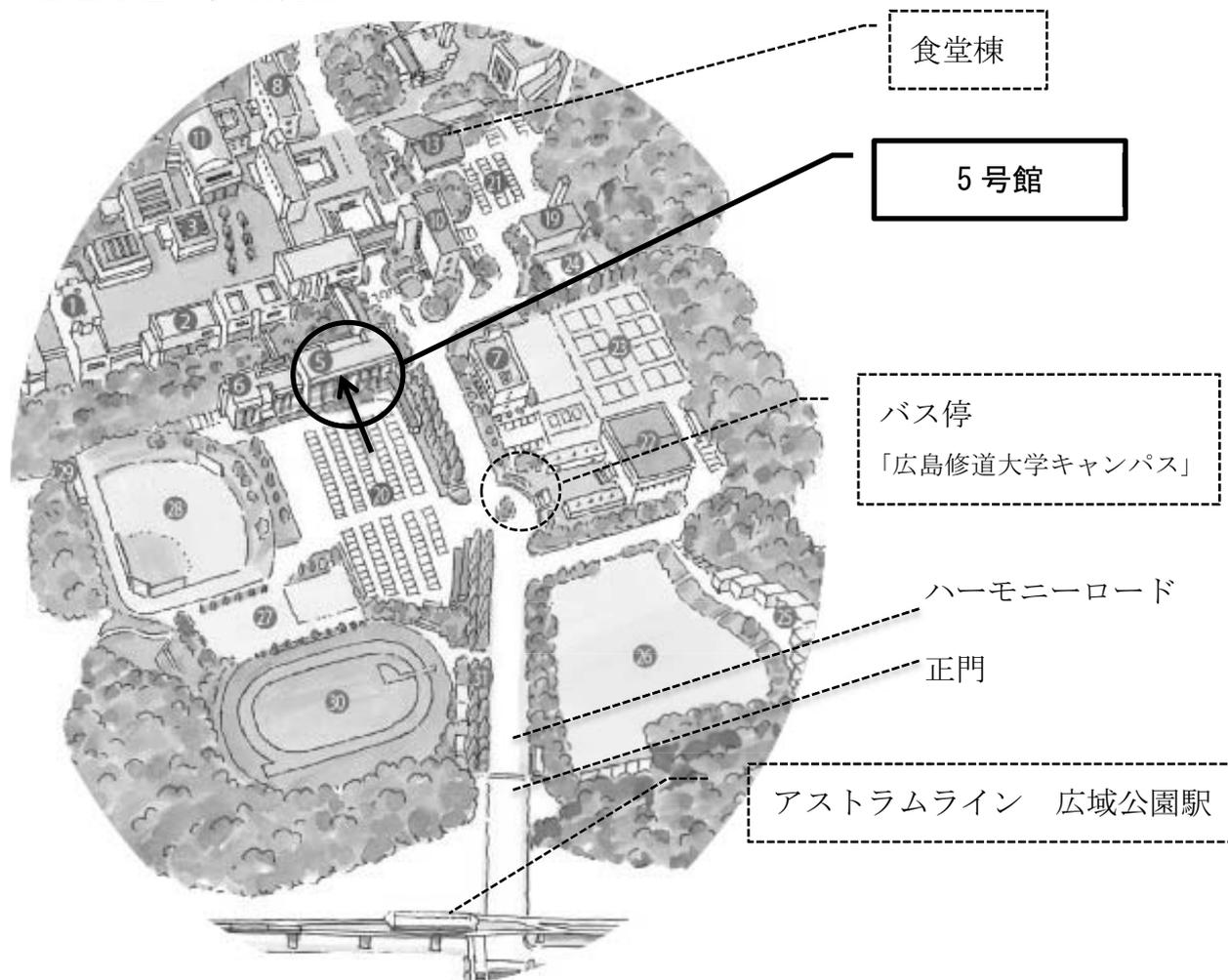
以上の問題意識のもと，本大会では，中学・高校の教育現場の声を大学教員に伝える場を提供したいと思います。そこで，2つのシンポジウムでは，広島県・鳥取県・島根県から中学・高校の教諭をお招きし，大学生の指導に関して大学教員との意見交換を行います。

実行委員会は，課題セッションと実行委員会企画の両方を体験されることで，多くの会員が，大学生の現在・過去・未来について立体的な情報を得られる，と信じています。今指導されている大学生の児童・生徒時代の様子を見に来る，というスタンスでお越しくだされば，と思います。

# 日本リメディアル教育学会 第9回全国大会

## 会場案内図

### <広島修道大学 構内図>



### <会場の構成>

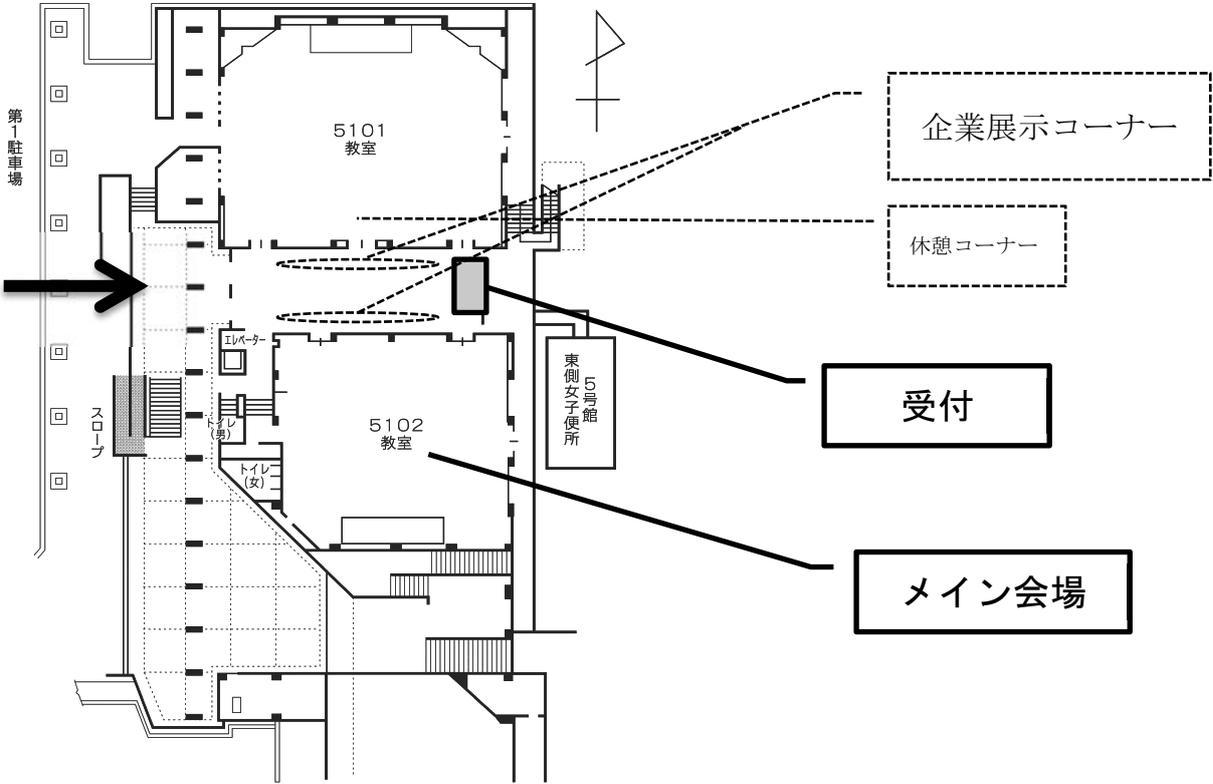
階	教室番号	主なイベント	
1階	ホール、5101	受付、企業展示・休憩コーナー	
	5102	メイン会場 課題セッション、開会式、特別講演、シンポジウム、招待講演等	
3階	5301, 5302, 5303, 5304, 5305, 5306	発表用教室 課題セッション、一般研究発表 企業展示	
4階	5401	役員・講師控室	
	5406		大会本部
	5408		会議室

# <会場案内図 (5号館)>

**1階**

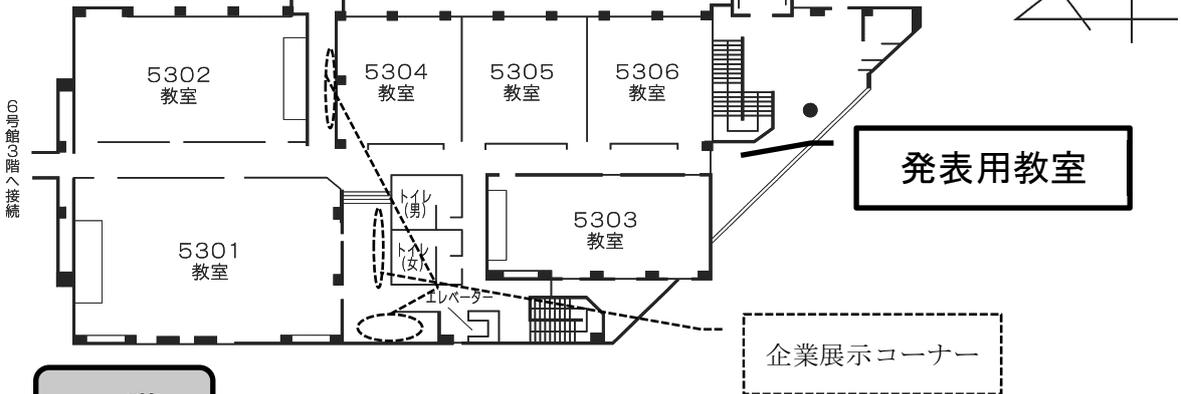
**5号館**

教室番号の見方 例) 5101教室  
 ●教室番号は、すべて、4桁になっています。  
 5 1 0 1  
 号 階 館 番



**3階**

2号館1階へ接続



**4階**

2号館2階へ接続

